

多摩健生の活性化と会員維持について

多摩健生 橋本 登

◎ 現在の多摩健生を活性化させる為の方法

1) 会員増強について

- ①多摩地区の同じような協議会等同士でコラボする。
- ②一年間で一人1名以上の会員増強を行う。
- ③パンフレット等を各区市町のコーナーに置いてもらう。
- ④地域内の他団体（JC、スポーツ団体等）と接触を計り、入会していただける方を探し勧誘する。
- ⑤自分の知り合いに声かけする。
- ⑥何かこれといったアクティビティを行う。
- ⑦地域の他団体と一緒に出来るものがないか検討する。
- ⑧地域性をいかした継続性のあるアクティビティをお行い積極的に参加し、社会福祉協議会などの団体と連携を行う。
- ⑨他の協議会と合同で何かをして親睦を深める。
- ⑩地域密着した何かをし、本協議会の認知度を高め本協議会が何をしているかをアピールする。
- ⑪その地域の人達が本当に望んでいる、または、困っているというニーズに応え、当協議会の活動を知って頂く。
- ⑫何かをやる時に、当協議会のみで行うことにこだわらず、出来れば、地域の方々との共同の作業を行う。

2) 協議会関連

- ①会員にマイナスになる様な事はしない。
- ②従来の運営方針を見直し、思いきって方向転換を試みる。
- ③民主主義に従って、多数決で全てを決める。
- ④他の協議会等に訪問を行い他協議会（クラブ）等の良い所を取り入れられないか検討する。
- ⑤当協議会を閉鎖的にせず、他の団体からの訪問を積極的に受け入れる。

3) 会員勧誘時の留意点

- ①単独・個人単位で入会を勧めるよりも、複数の人を一緒に入れる。
- ②同時期に入会すると話し相手が出来、仲間意識も出て来るメリットがあることを伝える。
- ③今までとは別の新しい友人を得ることが出来、いろいろなメンバーを見たり接触したりする事によって自分自身の勉強・向上になることを強調する。
- ④マイナス面も伝えておく。（すばらしい人もいるけれども、中には芳しくない人もいるということ伝えておく事も大切）
- ⑤当協議会についての認識を持って入会してもらう。（必ずしも、資格者だけの協議会ではない事を知ってもらう。）

4) 退会防止関連

- ①毎月の例会出席表を参考に仲間同士のコミュニケーションを行う。
- ②例会後の二次会、カラオケなど例会以外でのつながりを多く持ち親交を深める。

◎会員維持の対策について

- ①不況による経済的な問題が起因するもの。
- ②会員自身の高齢化および体調不良によるもの。
- ③会内における、人間関係の悪化や疎外感によるもの。
- ④当協議会そのものに興味を失ったことによるもの。
- ⑤その他上記の要素が複合して、退会に至る場合。

① の理由

現在の多摩健生は奉仕活動であるので、経済活動を優先することは、個人の営みにおいて当然であり非難されるものでない。

しかし、会員が当協議会に在籍を続けることや人間関係に不信感を持ちそれをムダなお金ムダな時間と考えるに至った場合には、当協議会運営そのものに問題を抱えている場合もある。

個々の会員が仲間を互いによく理解し合い退会者の要因を早期につきとめて対処する事が良いのでは、と考えます。又、入会した時に義理や金もうけになると勘違いして入会した場合、退会に至る場合もある。

② の理由

当協議会も結成されて20年になり会員の高齢化は今後さらに深刻な問題となる。高齢における退会者の場合は、終身会員として留って頂けるよう説得をする。病気入院など体調不良による場合も同様に休会扱いで残って頂けるようお願いする。

いずれにしても、当協議会に必要不可欠な存在であることを、本人に再認識して頂くことが大切である。

③の理由

奉仕活動を志す者は、まず会員相互の存在意義を互いに認め合うことを忘れてはならない。運営方法にも日々工夫するように努め、常日頃よりお互いに会話のキャッチボールをすることが大切であり声の大きい人発言力の強い人を中心に例会を進めると、自ずと協議会運営にもゆがみが生じる。

例会で全員が対等に自由な意見を言える協議会の雰囲気作りが人間関係を円滑にし、結果的には、会員維持につながっていくのではないのでしょうか。

今年は、協議会以外のプライベートでの付き合いを持つことも必要であると感じています。

例会後に夜の街を散策して親睦を深めたり、ハイキング等を共にして自然を学んだりしながら、お互いをよく理解し、地域ボランティア（有償・無償）を計画した時には、個性を存分に発揮して活躍して頂けるようにするとともに、多摩健生の活動の楽しさを伝えるようにする。

③ の理由

健康・生きがいは多摩健生の第一の目的であり、会員の精神的な拠りどころでもあります。

しかし、高齢になり事業を後継者に委ねると、活動への意欲を急速に失うことになる。会員には年齢差があり、全ての会員を同一に考えるには無理がある。

従って、高齢になられた会員に体力勝負の参加を義務付ける行為はなるべく控えた方がドロップを意識せず多摩健生に留まりやすい。むしろ、いろいろな事に対する考え方や、豊富な経験や知識をうまく会員に伝えて頂いたほうが賢明といえる。